

令和 8 年第 2 回(6 月)市議会定例会本会議報告について

教育総務課

質問者・質問の要旨	答弁の要旨と今後の課題、具体的対応策
【堀内太一議員】 ・学校のクマ対策マニュアルはあるのか。 ・クマ用スプレー、盾などを整備したらどうか。 【宇田川弘子議員】 ●柵田を活用した T O C O－T O N 型の学習について ・市として、柵田を活用した T O C O－T O N 型の学習を正式に教育課程へ位置づける考えはあるか。 【再質問】 ・現在、T O C O－T O N 型の学習に取り組んでいるということか。 ・千曲市として県の T O C O－T O N に手を挙げる考えはあるか。	【こども・教育部長】 ・作成していく。 ・検討していく。 【教育長】 ・現在、各学校では、学校の仕組みの改革、地域の方との交流、ふるさと学習等に取り組んでいる。具体的には、学校校則の改革、地域サロンへの参加、農業体験、稲荷山支援学校との交流等である。令和 7 年度には、八幡小学校 5 年生が総合的な学習の授業で、姨捨の柵田で田植えと稲刈りを行い、収穫したお米を販売する物産展を開催するなど、柵田を活用した学習を教育課程に位置づけている。今後も各学校の特色を生かし、様々な活動に取り組むことが大切だと考えており、様々な学習活動の中で、自らが学び、自己実現できる学校づくりを目指してまいりたい。 【教育長】 ・市内小学校、中学校では、夏服の検討、児童生徒が自主的な学習、伝統的な学習等を以前から伝統的な学習等 T O C O－T O N 型の学習に類似した学習に取り組んでいる。 【教育長】 ・事業期間が不明であることから多方面から検討していきたい。

【滝沢清人議員】

●学校体育館へのエアコン設置について

【再質問】

・計画的に設置とは

・都市部は設置が進んでいる。令和 15 年度ではなくできるだけ早く設置すべき。

【中村恒彦議員】

●市は学校行事の縮小をどこまで把握しているか

●学校行事の教育的意義について

●行事への補助の必要性について

【こども・教育部長】

各学校体育館は、児童生徒の学習の場であるとともに、災害時の指定避難所であることから、空調設備は喫緊の課題であることは承知している。令和 10 年度の国民スポーツ大会のハンドボール競技会場となる戸倉上山田中学校屋内運動場につきましては、今年度、空調設備設置工事の実施設計を行い、来年度に設置工事を予定している。来年度以降の各学校体育館への空調設備設置につきましては、国の「学校施設環境改善交付金」の活用を見込み、公共施設個別施設計画に組み込んで、計画的に設置を進めいく。

【こども・教育部長】

・国の補助金が有利となる令和 15 年度まで設置したい。

・努力していく。

【市長】

・教育委員会と連携し前倒ししできるよう努力していく。

【教育長】

・学校行事は、各学校ごとに計画をして、実施しているものであり、学校に一任をしていることから、市教育委員会では学校行事の縮小までは把握をしていない。

・学校行事を通じて、集団生活で規則を守ること、コミュニケーション力、忍耐力を養うことと認識している。

・昨今の物価高騰により、修学旅行、スキー教室等の行事に係る費用は年々増加していると聞いている。このようなことから、各学校では、限られた予算の中で、保護者負担軽減を考慮し、必要な行事を選別し実施している。市としては、全ての行事ではないが、行事実施に伴うバスの借り上げ費用を教育委員会で

●行事縮小に伴う保護者への説明、理解について 【再質問】 ・教育委員会として行事の縮小を把握し指導すべきではないか。 ・保護者に縮小する理由を説明すべきではないか。 ・必要な指導すべきであると考えてるので、今後検討してもらいたい。 ・クマ鈴を付けていない児童への指導をすべきではないか。 【前田きみ子議員】 ●子ども医療費完全無料化による検診受診率について 【再質問】 ・無料化の恩恵が受けられない子どもが多い。周知してもらいたい。	負担していることから、一定の補助をしているという認識である。 ・行事縮小の際は、学校からPTA役員等に説明を行ない、理解を得ているものと認識している。 【教育長】 ・学校行事の教育的効果は十分認識しているが、各学校の独自性を妨げてはいけない。市全体でこれはやるべきだ、やらないべきだということは指導すべきではないと考える。 ・保護者全員にアンケートをとることはなじまない。各学校では、PTA役員等に説明し理解を得ている。また、学校だよりを使い周知していると聞いている。 【こども・教育部長】 ・校長会で児童にクマ鈴を付けるよう周知した。 【こども・教育部長】 ・学校では、歯科、内科、眼科等の学校検診を実施し、再検査が必要と診断された児童生徒の保護者あてに「健康診断結果のお知らせ」をお渡ししております。その後、受診した場合は、受診結果を提出してもらっている。しかし、現在、この受診結果の提出や未受診率の算出は必ずしも求められているものではないことから、千曲市の子どもの医療費窓口完全無料化に伴う未受診の変化を市として把握することはできない状況である。 【こども・教育部長】 ・機会を捉えて保護者に無料化を周知していきたい。
--	--

【坂口吉一議員】

●埴生地区の教育施設の将来像について

【再質問】

・小規模修繕で劣化を防いでいだけなのか。

・第2次人口ビジョンでは、埴生中学校区は、現状維持となっている。公共施設個別施設計画は、人口減少地区と同じ考え方か、または、人口動向を踏まえた別の考え方があるのか。

●埴生地区における子育て・教育拠点の形成について

【教育長】

・市内には埴生地区以外にも築50年を超える校舎が複数あり、改修や長寿命化改修を行う時期に来ている。学校施設の適正規模・適正配置の検討や他の公共施設との複合化・共用化の推進等、教育環境の質の確保と財政状況を踏まえ、改修計画を検討していく。定期調査などの点検や職員による巡回等により、劣化状況を定期的に確認し、必要に応じて小規模な保全修繕を実施し、建物全体の劣化を防いでいく。

【教育長】

・中規模、大規模改修が必要なのか十分検討し、小規模改修で可能の場合は、小規模改修で劣化を防いで長寿命化を図っていく。

【教育長】

・人口増の地区、人口減の地区があるが、学校の大規模、小規模に関係なく1人1人の児童生徒に適切な教育、支援をしていくということが大事であることから規模の大小は考えていない。今年度、県の施策で小学校1学年で、2クラス以上の場合、1クラス25人学級でよいとなった。そのようなことからクラスが増える学校が出てくる。毎年状況を踏まえながら考えていきたい。

【教育長】

・埴生地区をはじめ市内すべての教育施設は、子育て支援や世代を超えた交流、そして防災機能を担う地域の拠点として重要な財産であると認識している。

保小中連携では、市内全域においてこれまでも小・中学校が連携を図ってまいりましたが、昨年度からは、特に、園から小学校への接続を本格的に進めているところです。

市内の保育園、幼稚園と密接に連携し、スタ

ートカリキュラム作成や来入児情報の共有を進め、子どもたちが安心して小学校生活を始められるよう一貫した支援体制を構築しております。これにより、保育段階から義務教育までを見通した学びと育ちの連続性を確保していく。

子育て支援においては、児童数の多い埴生小学校においては、放課後児童クラブが埴生児童館だけでは対応が困難なため、図工室や家庭科室を分室として開放し、受け入れ体制を強化している。これにより、学校施設を活用した保護者の放課後の預かりニーズに対応し、安心できる居場所を提供している。

また、世代を超えた地域交流においては、埴生地区は、保育園、小中学校、地域住民が深く関わる素地がある。具体的には、小学校の登下校時の地域ボランティアの方の見守り隊による安全確保、児童が育てた小菊を地域の商店に配る活動、中学校の家庭科実習による埴生保育園訪問を通じた園児との交流や、地域の清掃活動など、多様な学習や地域貢献活動を通じて世代間の交流を深めている。防災機能においては、埴生小学校および埴生中学校は、市が優先して開設する避難所であり、埴生中学校の校内には災害時に飲用水の供給が可能な応急給水拠点「安心の蛇口」が設けられているなど、災害時においては地区住民の命と安全を守る施設ともなることから、施設の機能を維持していく事は重要であると考えている。

埴生地区の保育園、小学校、中学校は、教育施設としての役割に加え、このような子育て支援、地域交流、防災機能といった多角的な視点から、「子どもたちの成長を地域全体で支え、地域がともに育つ交流の拠点」としての機能も持たせ位置づけ、関係部局や地域住民の皆様と連携し、充実に努めていく。

【再質問】

・市で考える将来のイメージ、デザインを地区毎に保護者に伝えられたよいと思う。検討してもらえたらと思う。

・おおとりプールの一般開放についての議論はされていないのか。

・建設当初、学校教育と地域開放の複合的免疫を期待して整備したと思う。維持管理費を増えたことにより一般開放を閉鎖したという解釈でよいのか。

・学校プールが老朽化している。おおとりプールを市内小中学校で利用、スポーツジム等、再評価し、活用を検討する考えはあるか。

【川嶋敬信議員】

●小中学校のエアコン設置について

答弁なし

【教育長】

・一般開放について議論していない。

【こども・教育部長】

・おっしゃるとおりである。

【教育長】

・市内学校からの移動の問題、1年中、温水だからといって、他の行事の関係から時期を変更して水泳授業を行うということは難しい。

【こども・教育部長】

令和3年、4年頃から物品購入となった経過は、壁掛けなどのエアコン機種で比較的工事の少ない場合は、設置費込みの物品購入で対応したためでございます。令和4年は空調設備などにもコロナ対策の補助金が活用できたことから、簡易な設置方法で予算を抑えながら、1箇所でも多くの教室に設置する方針で進めてきたので、物品購入での対応となっている。なお、天井埋め込み型などの大きな工事を伴うものについては、従来どおり工事契約である。また、現在、学校体育館への空調設備の設置が喫緊の課題となっておりますが、予算の平準化や早期設置、故障等に早期対応するためにも保守も含めたリース方式も検討していく。

質問者・質問の要旨	答弁の要旨と今後の課題、具体的対応策
一般質問 【中村恒彦議員】 ◆「千曲かるた」のさらなる活用を 「千曲かるた」は平成16年度の合併記念事業としてはじめて制作され、令和6年には、合併20周年を記念して改訂版が制作された。 ①2,000部制作された改訂版の売れ行き状況はどうか。 ②学校現場ではどの程度活用されているのか。 ③かるたを通して、「ふるさとを見つめ、郷土を愛する心を育んでもらう」という目的はどの程度達成されているのか。	【こども・教育部長】 市内の書店やふるさと漫画館、日本遺産センターなどの公共施設において、1箱1,500円にて販売しているが、令和6年度は98箱の売り上げ、令和7年度は31箱の売り上げがあった。 また、令和6年度に、ふるさと納税の返礼品として登録をしており、令和7年度には5件（箱）を返礼している。 改訂版を制作した後に、各小中学校には6箱ずつ配布をしている。各学校では、生活科・総合的な学習の時間のなかで「千曲かるた」を活用しているとお聞きしている。 具体的には、かるたに登場する場所を地図で調べたり、自分の好きなかるたの絵を描くことで、地域の魅力や素晴らしさについて学んでいる。また、地域探検を行うなかで、学区内の内容に触れている絵札や読み札をきっかけに学習を広げている。 郷土の歴史や文化、自然などを楽しく学べる教材として、小学校のふるさと学習の一環としても、活用されている。 授業だけでは学べない地域の魅力を知ることができる、郷土愛を育むためのツールのひとつとして、一定の成果を上げていると認識している。

5月23日の千曲未来フェスタで、「第2回千曲かるた大会」があり、30名前後の参加者があったが、参加した小学生の多くは、学校では「千曲かるた」はやったことがないという子どもがほとんどだった。何校かでは取り組んでいるが、全体ではおそらく10%に満たないのではないかというのが私の感覚。したがって、ぜひとも別の方法でやっていただきたい。

④個人戦だけでなく団体戦のかるた大会を市主催で企画してはどうか。団体戦は友だちとの交流が生まれ、力を合わせる楽しさが体験できる。かるた大会の案内は、学校を通じて子ども全員に配布してはどうか。

提案をいただき感謝。教育委員会としても「千曲かるた」を通じた郷土愛を育む取り組みは、大変重要であると考えている。

これまで、一部の公民館では「夏休み親子教室」のなかでかるた大会を開催している。また、現在、更級小学校で開校している「放課後こども教室」でもかるた取りを行っている。さらに、子ども会育成連絡協議会の「リーダー研修会」でのレクリエーション研修のなかでも、育成会役員がかるたの読み手となり、かるたで遊ぶ時間を設けている。

このように、まずは子ども会をはじめとする地域の団体が自発的にかるた大会を企画できるよう、育成会や関係団体に対し働きかけを進めて行きたいと考えている。地域の自主的な活動が活性化することにより、より一層ふるさとへの愛着が深まることを期待している。

よって、現在のところ、市主体のかるた大会を開催する予定はないが、各学校での生活科・総合的な学習の時間のなかで、個人戦・団体戦の大会などが開催できるかどうか、学校と協議をして行きたいと考えている。

⑤担任にも「千曲かるた」の趣旨や、生活科や総合学習の時間のテーマになりうることや活用方法を説明した文書を配布してはどうか。 かるた大会をやる予定はない、説明文を配布する予定はないとのことだが、制作した目的から考えると、市が主導していく責任がある。個人戦・団体戦の開催を含めて学校と協議するとのことなので、ぜひ開催していただきたい。 おそらく「千曲かるた」の存在をほとんどの先生が知らない。まずは知ってもらうという活動は必要であり、ぜひお願いしたい。	箱の中には、解説書とかるたの題材の位置図が同封されている。解説書と位置図をお読みいただければ、趣旨をご理解いただけると考えおり、説明文書をあらためて配布する予定は、現在のところありません。
---	---

質問者・質問の要旨	答弁の要旨と今後の課題、具体的対応策
【大澤洋子議員】 ●第4次男女共同参画計画の達成度は ・第4次計画の最終年度を迎え、男女が対等に、性別にかかわらず生きられる社会の実現に向け市の達成度は。 ・第5次計画の進め方が重要である。女性セミナーは、リーダーの養成も兼ねて実施していたが、リーダーの活動がどのようにできるのか、グループや組織としての活動が男女平等な社会の実現に近づくと考えるがいかがか。 ●リーダーの養成をしているが、個々。グループ化して活動が広がることを望むがいかがか。 ●グループ化の支援について検討願いたい。	【こども・教育部長】 ・第4次千曲市男女共同参画計画の達成度については、7月9日に開催予定の千曲市男女共同参画計画審議会においてご審議いただくこととしているが、セミナーなど計画どおりに実施され、好評を得た一方で、女性の公職参画率など目標達成に至らないと推察される施策もある。 ・男女格差解消のためには、女性リーダーの養成は重要であり、年6回開催している男女共同参画セミナーにおいても、リーダーの養成を目的のひとつとし、いわゆる生産年齢層の方にも大勢参加していただけるよう、セミナーのテーマや開催日時を工夫しているところ。 セミナー修了者などによるグループや組織としての活動も重要だが、まずは、そのリーダーとして活躍する人材の養成に注力して参りたい。 本年度策定する第5次計画については、現行計画の達成状況や、本年3月に実施した市民意識調査及び企業意識調査の結果、国や県の現行計画における施策も踏まえながら、今後もセミナー等を通じてより多くの方に学びの機会を提供し、様々な分野で女性リーダーとなる人材の養成が進むよう計画していく。 ・まずはリーダーを養成していく。 (要望)

令和 8 年第 2 回(6 月)市議会定例会委員会報告について

教育総務課

質問者・質問の要旨	答弁の要旨と今後の課題、具体的対応策
2 陳情第 5 号 公立中学校における平和教育及び校外学習の政治的中立性と安全確保を求める陳情 【田中秀樹委員】 ・中学校における平和教育はどのようなものか。 ・各学校からの実施状況を把握しているところがあるがどのように把握しているのか。 (2) 議案第 39 号 令和 8 年度千曲市一般会計補正予算(第 1 号) の議定について 質問なし (6) 議案第 44 号 令和 8 年度中学校一人一台端末更新事業における購入契約の締結について 【前田きみ子委員】 ・国の補助はあるのか	【教育総務課長】 所管課意見説明 【教育総務課長】 ・平和に関する施設見学等と認識している。 ・学校だより等で把握している。報告書の提出は求めているが、学校で振り返りをしているものと認識している。 【教育総務課長説明】 【教育総務課長説明】 【教育総務課長】 ・国・県・市 3 分の 1 ずつの負担となっている。

【北川原晃委員】 ・ 随意契約とした理由 ・ 他市の随意契約か	【教育総務課長】 ・ 県市町村自治振興組合で実施の共同調達プロポーザルにおいて選定された者と契約する必要があるため。 ・ そのとおりである。
3 所管事項調査 【北川原晃委員】 ・ 千曲坂城クラブにおけるマイクロバス使用に対するガイドラインについて ・ 危機管理マニュアルはあるのか。 ・ 保護者による送迎の際、任意保険の加入状況は確認しているか。	【教育総務課長】 本年5月の福島県郡山市内のバス事故を受けて、千曲坂城クラブ会長名で、「千曲坂城クラブにおける生徒引率時の安全確保の徹底について」を各専門部の代表者、事務局あてに通知した。内容は ・ バスを利用する場合、旅行業者、運行业者の選定にあたっては、安全管理体制、運転者の健康管理等が適切であることの確認、余裕をもった日程とすること。 ・ 保護者または保護者会等に送迎を依頼する場合 保護者の同意を得ること、運転者の健康状態、運転経験、任意保険への加入状況の確認 ・ 指導者が生徒を同乗させて、自家用車を使用しての引率を行わないこと。やむを得ず行う場合は、千曲坂城クラブ事務局の承認を得ること。 ・ 事前に緊急時の連絡体制・対応方法を明確にしておくこと。となっている。 ・ 「千曲坂城クラブ危機管理マニュアル」を整備しており、有事の際はマニュアルにより対応することとなっている。 ・ 千曲坂城クラブパンフレット 22 ページを説明（事故の責任） ・ 通知で周知しているが、改めて周知する。

生涯学習課

質問者・質問の要旨	答弁の要旨と今後の課題、具体的対応策
●議案第 39 号 令和 8 年度千曲市一般会計補正予算（第 1 号）の議定について 歳出補正 10 款 教育費 5 項 社会教育費 11 目 文化会館費（補正額）委託料 660 千円 【前田きみ子委員】 ・舞台業務委託料の補正額について、イベント何回分を見込んでいるのか。	【生涯学習課長】 ・イベント時における映像・音響の仕込み(事前準備)及び当日の音響等のオペレート業務で 1 回当たり 2 日間、イベント 10 回分を見込んでいる。

学校給食センター

質問者・質問の要旨	答弁の要旨と今後の課題、具体的対応策
【宇田川弘子委員】 やむを得ない事情により、不登校となっている児童の家庭は、物価高騰により食費がかかり負担となっている。公的支援や救済措置を検討しているのか。	【第 2 学校給食センター所長】 これから示される国の事務処理要領や他市の状況を参考にしながら、検討する。

こども未来課

質問者・質問の要旨	答弁の要旨と今後の課題、具体的対応策
3. 所管事項調査 【宇田川弘子委員】 物価高騰の影響対策でこども食堂に金銭的支援の検討を。	【こども未来課長】 市内 7 団体に要綱に基づき交付金を申請しており交付しており、1 回あたり 1 万円、最大 50 万助成しております。団体も予算内で社会情勢、物価変動に対応していただいております、現状では要綱どおりと考えておりますが、現場を訪問させていただき状況を注視してまいります。
こどもの夏の涼しい遊び場がない。ホームページを検索しても出てこない。クーリングシェルトなどあればよいが、検索して行け	更埴・上山田の子育て支援センターは 1 日、児童館・児童センターでも午前中（放課後児童クラブまで）開館しております。また、支援センターでは相談も受け付けておりますの

るように。	でご利用ください。周知はホームページ、ミニパンフレットで実施しております。
-------	---------------------------------------

保育課

質問者・質問の要旨	答弁の要旨と今後の課題、具体的対応策
3 所管事項の調査 【宇田川弘子委員】 市内保育園、公立と私立の人数割合について 市内保育園の空き状況について 多様化の時代に園児を私立の園に誘導する考えもあるのではないか。 保育園に子どもを預けるための就労要件の変更について	【保育課長】 現時点で年度内に途中入園が決定している園児を含め、市内公立保育園 11 園の園児数は 1,143 名、市内私立の保育園・認定こども園・小規模保育施設 9 園の園児数は 684 名、合計 1,827 名であります。年度途中の入園申込もありますので、最終的にはもう少し増えると思われます。 定員に対する入所率で申しますと、現時点で年度内に途中入園が決定している園児を含め、市内公立 11 園で 83.1%、市内私立 9 園で 99.4%、全体で 88.5%となっておりますが、保育士の配置基準等も考慮しますと、3 歳未満児の新規入園が可能な園・人数ともごくわずかな状況です。3 歳以上児におきましては、川東地区の多くの園では新規入園が厳しく、川西地区の園では新規入園が可能な園が比較的ある状況です。 保護者の皆様には、園を選ぶにあたっては、各園の特徴、家や職場から近い、バス送迎の有無など、各家庭の事情や考え方で入園を希望する園を選択していただきたいと思いますので、市で特に私立の園に誘導するということはいたしません。 就労要件の変更につきましては、令和 7 年 9 月社会文教常任委員会の各課報告で説明をさせていただきましたが、就労の適用条件は「子ども・子育て支援法」により、一月において

【北川原晃委員】 先日、屋代でクマ出没あったが、その1週間前に保育園のバス遠足で、森將軍塚古墳に園児が登っていた。1週間ずれていたら危なかったと思うが、クマ出没続いているが、保育課はどういう指示しているか。 協議会 1 各課報告 【前田きみ子委員】 「こども誰でも通園制度」で保育士の配置状況は。 「こども誰でも通園制度」の保護者の利用状況や要望は。 「こども誰でも通園制度」の利用時間を伸ばす考えはあるか。	48時間以上から64時間以上の範囲で定めることとされています。改正の目的は「3歳未満児の保育需要の増加やこども誰でも通園制度の本格実施により、保育士の更なる確保が必要となっております。こうした保育の需要と供給の変化に伴い、保育短時間認定として継続的に1日8時間通園できる就労の要件を、県内12市や近隣自治体とあわせ、月48時間以上から64時間以上働いているときとすることにより、保育の必要性が高い家庭がより優先されるようにする。」というものでございます。 【保育課長】 クマ出没の後に、森將軍塚古墳へのバス遠足を予定していた園があったが、直前で篠ノ井の公園に変更した。保護者にも理解が得られた。今後のバス遠足を含めた園外での行事については、クマ出没の危険性を考慮して、適切に指示をいたします。 【保育課長】 公立保育園2園で実施しており、各園に専属で2名の保育士を配置しています。 利用状況は0歳児・2歳児が多く、利用時間は午前中2～3時間が多い。0歳児は満1歳で保育園に入る前に園を経験させたい、2歳児は満3歳で認定こども園に入る前に園を経験させたいという要望が多い。子どもは、最初は泣くが徐々に慣れて、周りの物や園児、保育士に関心を示し、良い学びになっていると感じています。 ○認定した全ての人が利用しているわけではなく、10時間フルに使っている人はごくわず
--	--

	かな状況のため、今のところ利用時間の延長は考えていないが、引き続き利用状況を注視していきたい。
--	---